

居合道の活動

◎第五十六回

全日本居合道大会

監督 香村 茂

令和三年十月九日、東京都足立区綾瀬の東京武道館において開催されました。令和二年に石川県開催がコロナ感染症拡大の為に中止になって以降二年ぶりの開催となりましたが、今年から開催地が東京都に固定されることに決定され、コロナ対策の中での大会は時間割の設定など従来と異なる大会となりました。

コロナの為に欠場する県があることも危惧されておりましたが監督と選手一名で参加された県もあり、コロナ禍でもすべての都道府県が大会に参加することができました。

岐阜県選手団は監督 香村茂、五段 栗本英、六段 渡辺直、七段 矢澤夏女の四名にて編成。コロナ禍で強化稽古も満足に出来ない不十分な状況で大会に臨みました。

指定技は四回戦まで「諸手突き」「添え手突き」「総切り」準決勝戦および決勝戦「受け流し」「三方切り」「四方切り」試合は七段の部、矢澤選手 一回戦は宮崎の金山選手と対戦し1対2で敗退、六段の部、渡辺選手 一回戦は富山の塚原選手と対戦し3対0で勝利、二回戦は熊本の松井選手と対戦し2対1で勝

利、三回戦は山梨の村松選手と対戦し0対3で敗退、五段の部 栗本選手は一回戦シード、二回戦は群馬の吉村選手と対戦し1対2で敗退、岐阜県は総合成績二十五位の結果で終わりました。

全日本大会を終えて今後の課題としては、技を正確に、緩急、強弱、仮想敵との間と間合い、気魄、残心、強化稽古を通して居合道部全員で取り組み、来年度以降の全日本大会には、今回より上位の成績が残せるように努力いたします。

事務局だより

令和三年度全剣連表彰

剣道の振興に寄与したとして、次の方が団体が全剣連より表彰されました。

剣道有功賞

○山小瀬 進 先生

剣道教士 七段

平成八年から平成十九年まで岐阜県剣道連盟評議員、平成二十年から令和元年まで、岐阜県剣道連盟常任理事を務められました。

現在も岐阜県剣道連盟相談役の役職に

就くなど、識見卓越の人物で他の模範であり、長年にわたり岐阜県の剣道界発展のため、寄与された。

少年剣道教育奨励賞

○清心会

ア 活動期間 平成十六年四月～現在
イ 会員数 指導者五人・少年十八人・高校生一般十人

ウ 心と体を鍛えるとともに、基本打ちを中心に行い、一時的な剣道ではなく、生涯を通じて剣道を行うことの大切さを重視し指導している。
エ 活動日数 週三回（月・水・土）

○真正剣道スポーツ少年団

ア 活動期間 昭和四十五年四月～現在
イ 会員数 指導者四人・少年二十三人
ウ 昇級・昇段を目指すとともに、礼儀を大切にすることや感謝の気持ち等を育てることなど、人間形成に努めることを目的に活動している。
エ 活動日数 週二回（火・木）

○大垣市北小剣道スポーツ少年団

ア 活動期間 昭和五十六年四月～現在
イ 会員数 指導者三人・少年十五人
ウ 気の集中力と瞬間的な判断力を養うとともに、基本打突を中心に、応じ技など年齢に即した稽古及び剣道の礼法・作法も含め指導している。
エ 活動日数 週二回（水・金）

○東白川少年剣道クラブ

ア 活動期間 昭和五十六年十月～現在

イ 会員数 指導者二人・少年十人・高校生一般五人

ウ 逞しい身体と何事にも挫けない精神力を育むための活動を推進するとともに、気剣体一致の正しい打突や打突の機会を習得させることなどを重視し指導している。

○創武館内田道場

ア 活動期間 昭和五十一年四月～現在
イ 会員数 指導者五人・少年十人・高校生一般五人
ウ 剣道を通して、礼儀作法を身につけさせること、心身を練磨することや基本打ちの大切さや集中力を高めることなどを重点に指導している。
エ 活動日数 週二回（月・金）

岐阜県スポーツ賞

スポーツの分野における国際大会での入賞や全国大会で三位以内に入るなど優秀な成績を取った個人及び団体として次の団体が表彰されました。

○わかかさ女子剣道部

第十三回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会で前回大会に続き三位に入賞し、優秀な成績を収められました。

